

4. 2019 年度の研究活動

4.1. 競争的研究資金

4.1.1. 科学研究費補助金

- ・ 保利 一（研究代表者）：「基盤研究（C）」光触媒を溶射した吸着剤を用いた作用環境中の有機溶剤蒸気の分解除去方法の開発
- ・ 宮内博幸（研究代表者）：「基盤研究（C）」ウェアラブルデバイスとしてのシート状拡散型サンプラーの開発
- ・ 石松維世（研究代表者）：「基盤研究（C）」SPM, PM_{2.5} 中微生物濃度とエンドトキシン量に基づく曝露リスクの推定
- ・ 石田尾徹（研究代表者）：「基盤研究（C）」労働衛生管理のための CHEMCAD による混合有機溶剤の気液平衡関係の活用
- ・ 石田尾徹（研究分担者）：「基盤研究（C）」光触媒を溶射した吸着剤を用いた作用環境中の有機溶剤蒸気の分解除去方法の開発
- ・ 山本忍（研究代表者）：「若手（B）」皮膚吸収性 N,N-ジメチルアセトアミドの取扱い作業者の新規リスク評価法の開発
- ・ 樋上光雄（研究分担者）：「基盤研究（C）」光触媒溶射吸着剤を用いた作業環境中の有機溶剤蒸気の分解除去方法の開発

4.1.2. 厚生労働科学研究補助金

- ・ 保利 一（研究代表者）：受動喫煙を防止するための効果的な呼吸用保護具のフィルターの検討
- ・ 保利 一（研究分担者）：電動ファン付き保護具の実用性並びに普及に関する研究
- ・ 石田尾徹（研究分担者）：受動喫煙を防止するための効果的な呼吸用保護具のフィルターの開発
- ・ 樋上光雄（研究分担者）：受動喫煙を防止するための効果的な呼吸用保護具のフィルターの検討
- ・ 山本 忍（研究分担者）：受動喫煙を防止するための効果的な呼吸用保護具のフィルターの検討

4.1.3. 労災疾病臨床研究補助金

- ・ 山田晋平（分担研究員）：熱中症予防対策におけるウェアラブルセンサーの活用と効果的な熱中症予防法の検証
- ・ 宮内博幸（分担研究員）：実際の使用条件下における化学防護手袋の透過性の調査

4.1.4. 受託研究

- ・ 保利一：ポータブルガスクロマトグラフの作業環境への応用（新コスモス電機株式会

社)

- ・ 保利一：光分解反応を利用した作業環境改善技術の開発（ウシオ電機株式会社）
- ・ 保利一（研究代表者）、石田尾徹（研究分担者）：光触媒溶射吸着剤を用いた作業環境中の有機溶剤蒸気の吸着・分解除去法の開発（株式会社フジコー）
- ・ 保利一（研究代表者）、石田尾徹（研究分担者）：化学物質に対する簡易測定器に関する研究
- ・ 保利一（研究代表者）、石田尾徹（研究分担者）：エキシマランプ方式による VOC 分解除去に関する研究

4.1.5. 共同研究

- ・ 三宅晋司（分担研究員）、倉岡宏幸（研究分担者）：知的生産性向上に適した作業環境の検討（産業医科大学，前田建設工業株式会社による 2 施設共同研究，研究代表者：産業医科大学産業保健学部人間情報科学 黒坂知絵）
- ・ 石田尾徹：化学物質に対する簡易測定器に関する研究
- ・ 石田尾徹：エキシマランプ方式による VOC 分解除去に関する研究
- ・ 庄司卓郎（分担研究員）：労働者の安全認識の解明のための定性的研究（研究代表者：熊崎美枝子（横浜国立大学））
- ・ 庄司卓郎（研究代表者）：外国人技能実習生のリスク認知向上のための安全標識の開発（研究代表者：高木元也（労働安全衛生総合研究所））
- ・ 庄司卓郎（研究代表者）：働き方改革の推進法に関する研究（研究代表者：川波祥子（産業医実務研修センター））
- ・ 倉岡宏幸（分担研究員）：知的生産性向上に適した作業環境の検討（産業医科大学，前田建設工業株式会社による 2 施設共同研究，研究代表者：産業医科大学産業保健学部人間情報科学 黒坂知絵）

4.1.6. 奨学寄附金

- ・ 石松維世：ダイキン工業株式会社
- ・ 保利一：新コスモス電機株式会社

4.1.7. 産業医学・産業保健重点研究

- ・ 原邦夫：参加型対策指向型職場環境改善プログラムにおけるファシリテーター養成研修の効果と課題 - 日韓における違いに着目して
- ・ 樋上光雄：防毒マスク吸収缶軽量化のため，吸収缶に使用されているヤシ殻活性炭と比重の小さいモミ殻活性炭の吸着特性の比較
- ・ 山本忍：両親媒性捕集剤を用いた気中有機溶剤濃度の多成分同時測定法の基礎的検討

—作業環境測定業務の効率化への貢献—

- ・ 倉岡宏幸：異なる VDT 作業姿勢におけるフロー状態と生理反応の関係

4.2. 研究成果報告

4.2.1. 原著論文

- ・ Hiroyuki Miyauchi (2019): Development of a Method for Sampling Personal Exposure to Organic Solvent Vapor Using Layered Activated Carbon Fiber Passive Sampler in Workers. JSSE.59(1)
- ・ Shinobu Yamamoto, Akito Takeuchi, Toru Ishida, Hiroaki Ohkuma, Masayoshi Ichiba, Hajime Hori (2020). Development of a measurement method to determine the ceiling exposure concentration of ortho-phthalaldehyde handling workers. J Occup Health 62: e12105
- ・ Araki A, Azuma k, Miyauchi H et al (2019): Occupational exposure limits for cumene, 2,4 - dichlorophenoxy acetic acid, silicon carbide whisker, benzyl alcohol, and methylamine, and carcinogenicity, occupational sensitizer, and reproductive toxicant classifications. J Occup Health.61(4):328-330
- ・ Atsuko Araki, Kenichi Azuma, Ginji Endo, Yoko Endo, Tetsuhito Fukushima, Kunio Hara, et al.. Occupational exposure limits for cumene, 2,4 - dichlorophenoxy acetic acid, silicon carbide whisker, benzyl alcohol, and methylamine, and carcinogenicity, occupational sensitizer, and reproductive toxicant classifications, J Occup Health. 2019 Jul; 61(4): 328–330.
- ・ 三宅晋司, 倉岡宏幸, 黒坂知絵 (2019)：NASA-TLX 指標間の相関 —対比較は必要か？—。人間工学 55(6)：247-253
- ・ 樋上光雄, 荒尾弘樹, 笛田由紀子, 宮内博幸：発達障害のある労働者の安全衛生教育を行う前に産業安全衛生技術職が知っておくべき特性。Journal of UOEH in press
- ・ 樋上光雄, 保利一：破過曲線から示されるコーヒー抽出カスの揮発性有機化合物吸着特性。Journal of UOEH 41 417-424, 2019
- ・ 渡辺裕晃, 伊藤昭好, 原邦夫, 佐々木毅(2020)：自治体職場における労働安全衛生マネジメントシステム導入・定着による労働災害の抑制。労働安全衛生研究 13(1)：65-78

4.2.2. 総説・解説等

- ・ 保利一(2019)：労働環境における工学的対策の変遷と今後の展望。労働衛生工学 58：10-18
- ・ 保利一(2019)：労働安全衛生法に基づく作業環境測定の基本的考え方。産業医学ジャーナル 42(5)：37-42
- ・ 保利一 (2019)：オキュペイショナルハイジニストとリスクアセスメント。関衛だよ

り 66：7-8

- ・ 保利 一(2019)：作業環境測定法と作業環境測定士。産業医学ジャーナル 42(6)：40-45
- ・ 保利 一(2019)：大学における化学物質管理とリスクアセスメント。私立大学環境保全協議会会誌 27: 2-3
- ・ 石松維世：室内環境の微生物に関わる最近の話題（4） 職場環境における微生物汚染と対策, 室内環境, 22(3): 289-294 (2019-12)
- ・ 庄司 卓郎, 高木 元也, 呂 健:外国人労働者向けマンガ看板の開発 -視認性と内容理解につながる要因の検討-, 労働安全衛生研究, 13 (1), 35-47.
- ・ 奥田 篤史, 齋藤 誠, 保利 一, 宮田昌浩, 安井省侍郎, 鷹屋光俊(2019)：個人サンプラーを用いる作業環境測定をめぐって。作業環境 41(1)：8-26
- ・ 熊崎美枝子, 岡田賢, 清水芳忠, 庄司卓郎, 牧野良次(2019)：労働者の安全認識に対する影響因子に関する研究。労働安全衛生研究, 12 (3), 161-172.

4.2.3. 著書（単著，分担執筆等）

- ・ 石松 維世（2019）：最新の抗菌・防臭・空気質制御技術（土戸哲明・山口一編集），第3章第1節第8項 DNA解析—PCR法・リアルタイムPCR法，p.227-232 テクノシステム，東京，総ページ数 pp.588（2019-07-14 発行）
- ・ 保利 一（2020）：衛生管理者の役割。産業医が診る働き方改革 増補改訂版，産業医科大学（編），p.206-209，西日本新聞社，福岡（2020-02-01 発行）

4.2.4. 研究発表

<国内学会（第一著者）>

- ・ 保利一，津村瑠伊菜，松尾理子，石田尾徹，山本忍，内藤敬祐，後藤一浩，中家隆博，安田知絵，清原一益，吉田晃至，エキシマランプを用いた新たな発散防止抑制装置の開発，第59回日本労働衛生工学会，郡山，2019年11月
- ・ 保利 一，真如一彬，石田尾 山本 忍，樋上光雄，受動喫煙防止のための効果的な呼吸用フィルターの検討。2019年度呼吸保護に関する研究発表会，東京，2019年12月
- ・ 保利一，石田尾徹，樋上光雄，石松維世，笛田由紀子，山本忍，高畠伽央里，山本清司，坂口昇平，光触媒を溶射した吸着材のメタノール蒸気に対する吸着および分解特性，第92回日本産業衛生学会，名古屋，2019年5月
- ・ 三宅晋司，倉岡宏幸，黒坂知絵：NASA-TLX 指標間の相関の検討 ——対比較は必要か——，日本人間工学会第60回大会 東京，2019年6月
- ・ 三宅晋司，黒坂知絵，倉岡宏幸：精神課題遂行時の生理反応特異性 ——感覚取入型課題遂行時の心拍低下——，令和元年度日本人間工学会北海道支部大会，小樽，2019年11月
- ・ 伊藤昭好：すべての働く人に産業保健サービスを提供するために～政策法制度の視点か

- ら～産業衛生技術職の視点から，第 92 回日本産業衛生学会，名古屋，2019 年 5 月
- ・ 伊藤昭好：産業保健活動評価表の活用事例，第 29 回日本産業衛生学会全国協議会，仙台，2019 年 9 月
 - ・ 宮内博幸，田中茂：個人サンプラー装着による B 測定の有効性について，第 91 回日本産業衛生学会，名古屋，2019 年 5 月
 - ・ 宮内博幸，田中茂：インジウムの個人曝露測定の実際，第 12 回インジウムの健康影響に関する情報交換会・交流会，第 91 回 日本産業衛生学会，名古屋，2019 年 5 月
 - ・ 石松維世・保利一：室内外における総粉じん，SPM₁₀，PM_{2.5}中エンドトキシン濃度の変動，第 92 回日本産業衛生学会，名古屋，2019 年 5 月
 - ・ 石松維世：粒径の異なる粒子中細菌の菌数濃度，生菌数濃度とエンドトキシン濃度，2019 年度日本建築学会大会（北陸），野々市，2019 年 9 月
 - ・ 石松維世：浮遊微生物の測定方法と評価―濃度から菌叢解析まで―，第 29 回日本産業衛生学会全国協議会，仙台，2019 年 9 月
 - ・ 石松維世：器具素材がエンドトキシン濃度に与える影響，2019 年室内環境学会学術大会，那覇，2019 年 12 月
 - ・ 笛田由紀子，上野晋，諫田泰成，石田尾徹，吉田祥子，保利一：1-プロモプロパンの遅延性発達神経毒性と授乳脳を用いたその電気生理学的評価指標，第 37 回産業医科大学学会，北九州，2019 年 10 月
 - ・ 笛田由紀子，保利一：1-プロモプロパン短時間曝露は脳のシナプス可塑性を減弱する，第 92 回日本産業衛生学会，名古屋，2019 年 5 月
 - ・ 石田尾徹，楯山優樹，山本忍，樋上光雄，石松維世，笛田由紀子，保利一，混合有機溶剤の気液平衡関係の非理想性を迅速に確認できるシステムの開発，第 92 回日本産業衛生学会，名古屋
 - ・ 石田尾徹，保利一，リスクアセスメント対象物質における混合有機溶剤の気液平衡関係，第 37 回産業医科大学学会，北九州
 - ・ 庄司卓郎，高見悠希，金田佐和子，金崎優太：衛生管理者から見た現場における働き方改革の認識，日本産業衛生学会産業疲労研究会第 91 回定例研究会，北九州，2019 年 11 月
 - ・ 庄司卓郎，金崎優太，金田佐和子，川波祥子：働き?改革の推進?法とその効果に関する研究，人類働態学会西日本地方会第 44 回大会，北九州，2019 年 12 月
 - ・ 樋上光雄，石松維世，石田尾徹，笛田由紀子，山本忍，保利一：コーヒー抽出後の豆カスに対するアルコール類の吸着特性，第 92 回日本産業衛生学会，名古屋，2019 年 5 月
 - ・ 樋上光雄，保利一：有機溶剤蒸気の濃度低減対策に緑茶殻を利用する試み，第 37 回産

業医科大学学会，北九州，2019 年 10 月

- ・ 山本忍，竹内靖人，石田尾徹，樋上光雄，笛田由紀子，石松維世，市場正良，保利一：オルト-フタルアルデヒド測定法の開発ーTLV-Ceiling への対応ー，第 92 回日本産業衛生学会，名古屋，2019 年 5 月
- ・ 山本忍，石田尾徹，湯浅映里，大隈裕明，保利一：オルト-フタルアルデヒド濃度測定法の検討，第 37 回産業医科大学学会，北九州，2019 年 10 月
- ・ 倉岡宏幸，金愛未，高井瑠一郎，和田親宗，三宅 晋司：鏡映描写課題遂行時におけるフロー状態と生理反応の関係，日本人間工学会第 60 回大会，東京，2019 年 6 月
- ・ 倉岡宏幸：フロー体験であなたの働き方を変える？ーフローに関する基礎研究とその応用について，人類働態学会西日本地方会第 44 回大会，北九州，2019 年 12 月

<国内学会（共著者）>

- ・ 中家隆博，安田知絵，三木直矢，吉田晃至，内藤敬祐，後藤一浩，石田尾徹，保利一，多様な発散防止抑制措置の有効性とこれからの展望，第 92 回日本産業衛生学会，名古屋
- ・ 内藤敬祐，後藤一浩，中家隆博，安田知絵，清原一益，吉田晃至，石田尾徹，保利一，光照射モジュールによるホルムアルデヒド分解と作業環境改善，第 92 回日本産業衛生学会，名古屋
- ・ 内藤敬祐，後藤一浩，中家隆博，安田知絵，清原一益，吉田晃至，石田尾徹，保利一，真空紫外線によるホルムアルデヒド分解と作業環境改善，第 59 回日本労働衛生工学会，郡山
- ・ 安井省侍郎，保利 一，齋藤 誠，奥田 篤史，宮田昌浩，鷹屋光俊(2019)：個人サンプラーを用いる作業環境測定をめぐって．第 40 回作業環境測定研究発表会（シンポジウム）．2019 年 11 月

<国際学会（第一著者）>

- ・ Y. Fueta, M. Hinoue, M. Kanemitsu, H. Ohkubo, M. Fukunaga, E. Yasumatsu, T. Ishidao, S. Aou, and H. Hori. Inhibition of synaptic plasticity and brain/blood levels of 1-bromopropane in rats during inhalation. The 5th annual meeting of SOT and ToxExpo, Anaheim, March 15-19, 2020

<国際学会（共著者）>

- ・ Naito K, Goto K, Nakaie T, Yasuda C, Kiyohara K, Yoshida K, Ishidao T, Hori H, Decomposition of formaldehyde in working environment by excimer lamp, The 4th Asian Network of Occupational Hygiene Conference (ANOHC 2019), Bangkok, Thailand
- ・ C.Kurosaka, H.Kuraoka, S.Miyake: Poincare plot indexes of heart rate variability:

Pattern II responses and mental workload. 21st International Conference on Human-Computer Interaction, Orland, 7.26-31, 2019

4.3. 所属学会・研究部会

表 4-1. 所属学会一覧（五十音順にて記載）

所属学会	教員
American Conference of Governmental Industrial Hygienists (ACGIH)	保利, 宮内, 原
Human Factors and Ergonomics Society	三宅
International Commission on Occupational Health (ICOH)	保利
International Society for Respiratory Protection, (ISRP)	保利（理事）
Society for Developmental Origins of Health and Disease	笛田
Society for Psychophysiological Research	三宅, 倉岡
Society for Neuroscience	笛田
Society of Toxicology	笛田
安全工学会	伊藤, 宮内
化学工学会	保利, 石田尾
空気調和・衛生工学会	宮内
産業・組織心理学会	庄司
産業保健人間工学会	伊藤, 原
室内環境学会	保利, 伊藤, 原, 石松, 石田尾
照明学会	伊藤
人類動態学会	庄司（理事）
対人援助学会	樋上
大気環境学会	保利, 伊藤, 原, 石田尾
におい・かおり環境学会	宮内
日本 DOHaD 学会	笛田
日本エアロソル学会	保利, 石松
日本ストレス学会	三宅

所属学会	教員
日本栄養改善学会	伊藤
日本衛生学会	保利，三宅，伊藤，宮内，原，山本
日本音響学会	伊藤
日本化学会	保利，樋上
日本吸着学会	保利，樋上
日本建築学会	石松
日本公衆衛生学会	伊藤，原
日本行動医学会	庄司
日本細菌学会	保利，石松
日本作業環境測定協会	宮内（九州支部役員），石松，樋上，山本
日本産業衛生学会	保利(九州地方会理事，産業衛生技術部会幹事，許容濃度委員環委員)，伊藤（政策法制度委員会委員長，許容濃度等委員会専門委員），宮内（生涯研修委員会委員），原（許容濃度委員），石松，笛田，石田尾，庄司（産業疲労研究会世話人），樋上，山本
日本自律神経学会	三宅
日本職業・災害医学会	保利
日本心理学会	庄司
日本人間工学会	三宅（ISO/TC159 国内対策委員会 SCI 分科会委員，PIE 研究部会長），庄司（代議員，九州沖縄支部理事），伊藤，山田，倉岡
日本生体医工学会	三宅
日本生理学会	笛田（評議委員）
日本生理心理学会	三宅
日本生理人類学会	三宅（評議員）
日本素材物性学会	石田尾
日本騒音制御工学会	伊藤，原
日本中毒学会	保利
日本毒性学会	笛田
日本発汗学会	三宅
日本発達障害支援システム学会	樋上
日本分析化学会	原，樋上，山本

所属学会	教員
日本防菌防黴学会	石松
日本臨床神経生理学会	三宅
日本労働衛生工学会	保利（会長）、伊藤（副会長）宮内（理事）、原、石松、石田尾、樋上、山本
ヒューマン・インタフェース学会	三宅
労働時間日本学会	庄司

表 4-2. 所属研究部会・協議会一覧（五十音順にて記載）

研究会	教員（役職等）
Psychophysiology in Ergonomics	三宅、山田、倉岡
公益財団法人日本建築衛生管理教育センター	宮内（厚生労働大臣登録建築物衛生管理技術者講習会 教授）
公益財団法人日本建築衛生管理教育センター	宮内（建築物衛生管理技術者講習会 福岡地区委員会 委員）
材料・界面部会	石田尾
産業医学推進研究会	樋上（教育研修担当理事）
私立大学環境保全協議会	保利（会長）
大学等環境安全協議会	山本
超臨界流体部会	石田尾
日本空気清浄協会	石松、樋上
日本産業衛生学会産業衛生技術部会	保利（産業衛生技術部会幹）、伊藤（幹事）、宮内（産業衛生技術部会幹事、九州産業衛生技術部会会長）、原、山本
日本産業衛生学会産業神経・生物学的モニタリング研究会	保利（世話人）、笛田
日本女性科学者の会	笛田
日本人間工学会 PIE 研究部会	三宅（会長）、山田、倉岡
日本労働安全衛生コンサルタント会	保利、伊藤、宮内、原
認定人間工学専門家部会	伊藤
福岡産業保健総合支援センター	宮内（産業保健相談員）
におい・かおり環境協会	樋上
ブレインサイエンス研究会	笛田
ゆらぎ現象研究会	三宅

5. 社会活動（公開講座やセミナー）

環境マネジメント学科の教員は様々な委員会や学会あるいは研究会や産業保健分野の機関の研究等で活躍している。その一端を以下に紹介します。

- ・ 保利 一：5 月 28 日 オキュペイショナルハイジニスト養成講座 ばく露評価と管理 1 回 日本作業環境測定協会 東京都
- ・ 保利 一：6 月 28 日 日本作業環境測定協会九州支部講演会 有害作業における労働衛生工学的対策の方法と課題 1 回 日本作業環境測定協会九州支部 福岡市
- ・ 保利 一：7 月 11 日 作業環境測定士登録講習 金属類に係る機器分析概論 1 回 西日本産業衛生会 北九州市
- ・ 保利 一：7 月 18 日 公害防止管理者（水質）受験準備講習 污水处理特論 1 回 産業環境管理協会 福岡市
- ・ 保利 一：7 月 19 日 日本作業環境測定協会大阪支部講演会 化学物質のリスクアセスメントについて 1 回 日本作業環境測定協会大阪支部 大阪市
- ・ 保利 一：9 月 5 日 作業環境測定士登録講習 特定化学物質に係る機器分析概論 1 回 西日本産業衛生会 北九州市
- ・ 保利 一：9 月 20 日 2019 年度作業環境測定士ブラッシュアップ講習 個人サンプラーによる作業環境測定の動向 1 回 日本作業環境測定協会 高松市
- ・ 保利 一：10 月 4 日 オキュペイショナルハイジニスト養成講座 化学工学, 流体力学, 粉体工学の基礎 1 回 日本作業環境測定協会 東京都
- ・ 保利 一：10 月 5 日 日本作業衛生学会産業衛生技術部会九州支部研修会 これまでの教育・研究活動を振り返って 1 回 日本産業衛生学会産業衛生技術部会九州支部 北九州市
- ・ 保利 一：10 月 11 日 2019 年度作業環境測定士ブラッシュアップ講習 個人サンプラーによる作業環境測定の動向 1 回 日本作業環境測定協会 札幌市
- ・ 保利 一：10 月 25 日 2019 年度作業環境測定士ブラッシュアップ講習 個人サンプラーによる作業環境測定の動向 1 回 日本作業環境測定協会 福岡市
- ・ 保利 一：12 月 3 日 作業環境測定士登録講習 金属類に係る機器分析概論 1 回 西日本産業衛生会 北九州市
- ・ 保利 一：12 月 8 日 公害防止管理者（水質）資格認定講習 污水处理特論 1 回 産業環境管理協会 福岡市
- ・ 保利 一：12 月 16 日 オキュペイショナルハイジニスト研修会 労働環境のリスク評価法 東京都
- ・ 保利 一：1 月 10 日 作業環境測定士登録講習 特定化学物質に係る機器分析概論 1 回 西日本産業衛生会 北九州市

- ・ 保利 一：1月31日 2019年度作業環境測定士ブラッシュアップ講習 個人サンプラーによる作業環境測定の動向 1回 日本作業環境測定協会 名古屋市
- ・ 保利 一：2月7日 2019年度作業環境測定士ブラッシュアップ講習 個人サンプラーによる作業環境測定の動向 1回 日本作業環境測定協会 大阪市
- ・ 保利 一：2月26日 作業環境測定士登録講習 金属類に係る機器分析概論 1回 西日本産業衛生会 北九州市
- ・ 保利 一：3月18日 作業環境測定士登録講習 特定化学物質に係る機器分析概論 1回 西日本産業衛生会 北九州市
- ・ 三宅 晋司：3月5-6日 講習会 生理指標による“ひと”の状態の計測・評価の基本とテクニック ～緊張・ワークロード・癒し・リラックス・快適性など生理指標計測の基礎と応用～ 1回 株式会社テックデザイン 北九州市（産業医科大学）
- ・ 三宅 晋司：12月5-6日 セミナー 生理計測とデータ解析・評価法 ～心理生理学研究によるひとの状態・感情評価法～ 1回 株式会社エヌ・ティー・エス 北九州市（産業医科大学）
- ・ 宮内 博幸：4月12日 労働衛生管理研修会 個人サンプラーを用いた作業環境管理 1回 福岡
- ・ 宮内 博幸：7月5日 労働衛生管理研修会 皮膚からの化学物質曝露を防護するために 1回 福岡産業保健総合支援センター 福岡
- ・ 宮内 博幸：6月21日 労働衛生管理研修会 テレワークの推進と眼疲労の予防 1回 福岡産業保健総合支援センター 福岡
- ・ 宮内 博幸：7月27日 東海地方会第20回研究会 環境マネジメント学科の強み、他職種との協働の役割 1回 産業医学推進研究会 愛知
- ・ 宮内 博幸：9月25日 若松区産業保健委員会研修会 酸欠危険場所での酸欠事故対策 1回 北九州市若松区医師会 福岡
- ・ 宮内 博幸：10月25日 全国安全衛生大会基調講演 個人ばく露測定によるリスクの見える化（視覚的に捉えたばく露低減対策・改善に向けて） 1回 中央労働災害防止協会 京都
- ・ 宮内 博幸：11月17日 石川県医師会産業医研修会 チームリソースマネジメント 1回 石川県医師会 石川
- ・ 宮内 博幸：1月24日 労働衛生管理研修会 テレワークの推進と眼疲労の予防 1回 福岡産業保健総合支援センター 福岡
- ・ 宮内 博幸：2月14日 労働衛生管理研修会 皮膚からの化学物質曝露を防護するために 1回 福岡産業保健総合支援センター 福岡

- ・ 宮内 博幸：3月6日 労働衛生管理研修会 個人サンプラーを用いた作業環境管理 1回 福岡産業保健総合支援センター 福岡
- ・ 庄司 卓郎：4月 CPDS セミナー講師 現場における安全活動の活性化 4回 沖縄グリーンアース 沖縄県那覇市
- ・ 庄司 卓郎：1月 安全研究会 事故分析 1回 北九州市役所 北九州市
- ・ 庄司 卓郎：2月 大分県安全管理担当者研修交流会 安全活動を活性化する方法 1回 大分労働局 大分県大分市
- ・ 伊藤 昭好：6月19日 作業環境測定士登録講習 鉱物性粉じんに係る機器分析概論 1回 西日本産業衛生会 北九州市
- ・ 伊藤 昭好：10月24日 作業環境測定士登録講習 鉱物性粉じんに係る機器分析概論 1回 西日本産業衛生会 北九州市
- ・ 伊藤 昭好：2月6日 作業環境測定士登録講習 鉱物性粉じんに係る機器分析概論 1回 西日本産業衛生会 北九州市
- ・ 伊藤 昭好：3月26日 作業環境測定士登録講習 鉱物性粉じんに係る機器分析概論 1回 西日本産業衛生会 北九州市
- ・

あとがき

来年度の 2020 年度は産業衛生科学科という名称変更を行い、カリキュラムも見直す。従来からの工学系の学問に加え、組織論や経営マネジメント分野の学問も取り入れる方向に進んでいる。これが吉と出ることを期待している。

ともかく、2016 年（平成 28 年）に 20 周年記念報告書が出されてからしばし時間も経っていることから、そして 3 名ものベテランが定年退職を迎えられることから、この間これから本学科がどうしていくかの知恵を出されてきたことも活かすためにも、現在の学科は何をやっているかを改めて整理する意義がある信じ、本冊子をまとめた。

近年、秋口から企業の皆さんの求人説明会などが始まり、2019 年度では 5 倍以上の求人があった。本学科の養成する人材への大きな期待が寄せられていることの証左である。また、高校訪問を通じて、福岡県内の高校や予備校の進路指導担当の多くの先生方から本学科に注目していただいていることを感じているところである。今回、学科の名称変更があっても、これまでの基本姿勢を変えず新しい分野も取り入れるということをご理解いただいて、各方面から引き続きご注目を得たいと願っている。（原邦夫）